

## 介護職員初任者研修課程カリキュラム表

科(科目)名	内 容	実施計画	科目番号
(1)職務の理解 (6時間)	①多様なサービスの理解	研修の全体像がイメージできるよう、研修科目全体の構成と各研修科目についての説明を行う。以降の研修を効率的・効果的に学習できるよう促す。	(1)－①
	②介護職の仕事内容や働く現場の理解	現場職員の体験談を通して、サービス提供現場が具体的にイメージできるようにする。サービス提供に至るまでの多職種との連携、チームアプローチを学ぶ。	(1)－②
(2)介護における尊厳の保持・自立支援 (9時間)	①人権と尊厳を支える介護	人間や社会のあるべき姿を見つめながら、人権尊厳を守ることの重要性を、その背景となる哲学制度、法律とともに学習する。	(2)－①
	②自律に向けた介護	具体的な事例を複数提示し、利用者の残存機能を効果的に活用しながら、自立支援や重度化防止に資するケアを理解する。	(2)－②
(3)介護の基本 (6時間)	①介護職の役割、専門性と多職種との連携	地域包括ケアの重要性や介護職の役割と専門性、多職種の理解と連携の方法について学習する。	(3)－①
	②介護職の職業倫理	専門家としての社会的責任を十分理解し、倫理に根ざした姿勢、支援の方法を学習する。	(3)－②
	③介護における安全の確保とリスクマネジメント	介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解する。安全を確保するための事故への備え、環境整備等、リスクマネジメントの考え方や方法を学習する。	(3)－③
	④介護職の安全	介護職に起こりやすい健康障害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点に学ぶ。	(3)－④
(4)介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9時間)	①介護保険制度	介護保険制度の理念や仕組みを理解する。各サービスや地域支援の役割について学び、サービス利用までの流れを理解する。	(4)－①
	②医療との連携とリハビリテーション	医療行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士等が行える医療行為について理解する。施設における看護と介護の役割・連携について学ぶ。	(4)－②
	③障害者総合支援制度およびその他制度	利用者の生活を中心に考えるという視点で、生活を支援するための介護保険制度、障害者総合支援制度、その他のサービスの位置づけについて学ぶ。	(4)－③
(5)介護におけるコミュニケーション技術 (6時間)	①介護におけるコミュニケーション	利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考える。相手の心理機能に合わせた配慮が必要であると理解する。	(5)－①
	②介護におけるチームのコミュニケーション	チームケアにおける専門職種でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解する。記録等を作成する意義・目的・書き方を学び情報の共有の大切さを学ぶ。	(5)－②
(6)老化の理解 (6時間)	①老化に伴うこころとからだの変化と日常	加齢・老齢化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴を理解する。	(6)－①

	②高齢者と健康	高齢者に多い疾病の種類と、症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて学ぶ。	(6)－②
(7) 認知症の理解 (6時間)	①認知症を取り巻く状況	認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について理解する。介護において認知症を理解することの必要性への気づきを促す。	(7)－①
	②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	認知症という疾患を理解し、一人ひとりの症状や障害に対するケアの方法を学習する。認知症の医学的な理解とともに予防や健康管理について理解する。	(7)－②
	③認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	認知症の中核症状と行動・心理症状(BPSD)等の基本的特性、およびそれに影響する要因について理解する。利用者との具体的な関わり方を学ぶ。	(7)－③
	④家族への支援	家族の気持ちや、家族が受け入れやすいストレスについて学ぶ。事例を通して、介護者の思いを理解し、介護職員としてどのように支えられるか理解をする。	(7)－④
(8) 障害の理解 (3時間)	①障害の基礎的理解	障がいの概念、障害を支える制度や仕組み、法律について学習する。障害者への介護にあたり、障害に関する基礎的理解を深める。	(8)－①
	②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	視覚障害や聴覚障害をはじめ、内部障害、精神障害等について、各々の疾患や症状、介護における留意点について学習する。学習を通して、障害を正しく理解し、介護の基本的姿勢を学ぶ。	(8)－②
	③家族の心理、かかわり支援の理解	家族の心理や障害受容、支援にあたっての留意点について学習する。介護においては、障害児・者だけでなく、家族にも寄り添うことの大切さを理解する。	(8)－③
(9) ところとからだのしくみと生活支援技術 (75時間)	【ア 基本知識の学習 (10～13時間)】		
	①介護の基本的な考え方	介護の基本的な考え方として、介護の理念や法的根拠、介護を行ううえでの視点について学習する。利用者を主体とする介護の意味を理解する。	(9)－①
	②介護に関するところのしくみの基礎的理解	記憶や感情のメカニズムをはじめ、幸福感や生きがいを感じる自己の懸念、さらに老化や障害の受容、適応について学習する。	(9)－②
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	人体の各部の名称をはじめ、骨や関節の構造、中枢神経や自律神経と内部器官などの基礎的な知識を学習する。	(9)－③
	【イ 生活支援技術の講義・演習 (50～55時間)】		
	④生活と家事	生活支援としての家事サービスのあり方を明確にするとともに、実際の調理、洗濯、掃除等の家事サービスにおける留意点について学習する。	(9)－④
	⑤快適な居住環境整備と介護	快適な生活を送るために快適な居住環境の整備から、利用者が生活の各場面で活用できる福祉用具(機器)について学習する。	(9)－⑤
	⑥整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	身なりを整えることの意義や目的、整容のための必要な支援の方法や技術について学習する。	(9)－⑥
	⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	移動・移乗の意義をはじめ、安全で安楽な介助を行うためのボディメカニクス、人体の構造や基本肢位の理解、具体的な介助技術について学習する。	(9)－⑦

	⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	食事の意義や目的から、栄養に関する知識、代表な疾病における栄養や調理、さらに食事介助の方法について学習する。	(9)－⑧
	⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	さまざまな生活動作に伴う入浴における介助をはじめ、清拭や部分浴に関する支援の方法を学習する。利用者が出来ることは利用者が行うといった、残存機能を生かした支援を学ぶ。	(9)－⑨
	⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	排泄に関する基礎知識をはじめ、具体的な支援方法について学習する。利用者の尊厳を重視した介助のあり方を理解する。	(9)－⑩
	⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	睡眠のメカニズムから、心地よい睡眠を確保するための環境や福祉用具の活用法、快い睡眠のための支援方法を学習する。	(9)－⑪
	⑫死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	終末期ケアの基礎知識から、死にいたる過程、死を迎える高齢者と家族の心理と支援の方法を学習する。その人らしい死を迎えるための介護のあり方を学ぶ。	(9)－⑫
	【ウ 生活支援技術演習 (10～12 時間)】		
	⑬介護過程の基礎的理解	支援を行ううえで、最も重要な介護過程の意義や目的など、介護過程の基本的な視点や姿勢について学習する。	(9)－⑬
	⑭総合生活支援技術演習	事例を通して、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。	(9)－⑭
(10)振り返り	①振り返り	研修の全過程を振り返り、研修を通して学んだこと、習得したことについて再確認を行う。	(10)－①
(4時間)	②就業への備えと研修 修了後における継続的な研修	修了後も継続的に学習することを前提に、介護職が身に付けるべき知識や技術の体系を再掲するなどして、受講者が今後何を学習すべきか理解する。	(10)－②

※ 実施計画欄には、申請者が実施する研修内容を記載すること。

※ 実習を行う場合は、「(9) ところとからだのしくみと生活支援技術」内の「ウ 生活支援技術演習」内で、12 時間以内とする。

※ 実習受入担当者による指導ではなく、研修担当講師による指導の一環として行われる施設の見学は、「(1) 職務の理解」及び「(10) 振り返り」で行うことができる。